

第3次知多市環境基本計画一部改訂（案）のパブリックコメント実施結果

- 1 意見募集期間 令和5年9月27日（水）～令和5年10月26日（木）
- 2 意見の提出方法 書面で直接、郵送、ファックス又は電子メール
- 3 意見の提出者数 4人（15件）

No.	ページ	詳細項目	質問・意見内容	市の考え
1	30	地球温暖化の現状と動向	日本は、2021年4月に2050年カーボンニュートラルを宣言していることから、「2050年までに」の間違いでは。	本文中の2050年前後という表現は、IPCCが公表した「1.5℃特別報告書」における二酸化炭素排出量を実質ゼロにする時期を指しており、国が表明したカーボンニュートラルの達成時期とは異なるものです。
2	30	地球温暖化の現状と動向	「臨界点（ティッピングポイント）」の危険性など記載がない、記入してください。 ティッピングポイントとは、ある温度を超えると、南極やグリーンランドの氷床、永久凍土の融解など十数個が取り上げられ、融解などが止められなくなる状態が危惧されています。 1つのティッピングポイントの開始が、別のティッピングポイントの開始を誘発するといった連鎖も危惧されています。すでにティッピングポイントを超えているとの見解の研究者もおられますが、ティッピングポイントに近いことは確かです。 出典 ・ティッピングポイント、CASA letter N0109、江守正多 ・「気候非常事態—気候がティッピング・ポイント（転換点）を超えた、今こそカーボンニュートラルのアクションプランを」 山本良一 東京大学名誉教授	ティッピングポイントがいつ到来するかについては、必ずしも科学的に一致した見解はありませんが、IPCCが警告する、産業革命以降の地球温度の1.5℃の上昇を超えるとその可能性が高いと言われています。「1.5℃特別報告書」に関する説明を次のように修正することにより、ティッピングポイントの説明に変わるものと考えています。 ⇒大気中の温室効果ガス濃度が高まって熱の吸収が増えた結果、気温が上昇しており、地球温暖化と呼んでいます。平成30年10月に国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が公表した「1.5℃特別報告書」では、高温の増加や海水面の上昇など、地球温暖化により人類への深刻な被害や影響が出るかどうかの境界を「産業革命以降の世界の平均気温上昇を1.5℃に抑えること」とし、達成のためには、地球温暖化の大きな原因と言われている、石炭や石油などの化石燃料の燃焼により排出される二酸化炭素の量を、2050年前後に実質ゼロにすることが必要とされました。
3	30	再生可能エネルギーの導入目標	「1.5℃特別報告書」の重要性をコラムを設けて説明する必要があると思われます。	1.5℃特別報告書は、国の方針決定の根拠となったものであり、本市の計画改訂における直接的な根拠ではないため、コラムによる詳細な説明ではなく、本文を上記のとおり修正します。

No.	ページ	詳細項目	質問・意見内容	市の考え
4	31	市内の温室効果ガス排出量	排出量の推移について、2016年度と2018年度とが、対前年度比微増であったことを注視して深く追及して今後に生かしていくことが大切と考えます。更に2023年度までの排出量が計測されていれば記載すべきですし、継続されていなければ対策自体が問われることとなりませんか。検討願いたいと思います。	排出量が微増した要因は産業部門であり、景気や事業活動による変動があったものだと考えていますが、市内の大規模事業所に対して排出量抑制を働きかけることが重要と考えています。 また、排出量については、算出に用いる統計情報等が毎年集計されていますが、公表までに時間を要するため、現時点で把握できている数値を記載しています。
5	34	再生可能エネルギーの導入目標	「風力発電」が全く“なし”。理由は、投資効率ですか。3年に1基位建設を…	名古屋港管理組合では、老朽化により風力発電の廃止が予定されている中、新たな風力発電の設置の検討を進める計画としていますので、導入目標は現況と同じ値としました。
6	35	2050年脱炭素社会の実現に向けて	脱炭素社会の実現に向けて「待ったなし」の状況、という文言がありますが、既に異常気象が惹起して手遅れ状態にある現実を照らして、警鐘を鳴らす必要があると思われまます。今、今、今の覚悟を訴えることを検討願います。	次のとおり修正します。 ⇒地球温暖化の影響は、刻々と進行しています。 <u>このままでは、今の生活に多大な影響が発生するだけでなく、将来世代に大きなリスクを残す「待ったなし」の状況で、気温上昇を抑えるための行動を、今すぐに起こさなければなりません。</u> 革新的な技術の開発により、産業部門では脱炭素が積極的に進められようとしています。脱炭素社会の実現には、特定の部分に頼った取組ではなく、社会全体の意識を高めていくことが求められます。
7	38	脱炭素型ライフスタイル・事業活動への転換	「ちょっとした行動の積み重ねが～大きな削減につながります」と記載されていますが、温室効果ガス排出量の何パーセントになるか具体的に示した方が分かりやすい。	今回の計画では、市域全体の温室効果ガス排出量を基に算定した削減量を目標値として設定しており、取組項目ごとの内訳を示すことは困難です。効果の大小による優先度や時期に差はなく、できることからすぐに、各主体が行動を開始するきっかけとなるよう、基本となる考え方を示しています。
8	38	ページ全体	取り組みの各項目について、温室効果ガス排出量の何パーセントに当たるのか影響度を明確にし、優先度の高い取り組みを急ぐ必要があると思えます。 2030年に計画では、どこまで実施するかも明確にし、目標の達成の可能性も明確にしてください。	
9	38～41	2-2-1 脱炭素なくらし・基盤づくり	同一タイトルで2分割されていますが、サブタイトルを付けて、小分けした方が良い	取組の内容が多岐に渡っており、サブタイトルで分割してまとめることが難しいため、現状のままとします。
10	42～45	2-2-2 再生可能エネルギーの利用促進、脱炭素技術の社会実装に向けて	同一タイトルで2分割されていますが、サブタイトルを付けて、小分けした方が良い	取組の内容に沿ってタイトルを分割します。

No.	ページ	詳細項目	質問・意見内容	市の考え
11	—	その他	<p>このテーマではないかもしれませんが、「気候非常事態を宣言」を知多市もすべきではないですか。</p> <p>世界30か国、日本では2019年9月に壱岐市が初めて宣言して以来、34の自治体がこれに続いて宣言した。また148の自治体が2050年二酸化炭素排出実質ゼロを表明している。(2020年11月)</p>	<p>気候非常事態宣言は、気候変動に対して緊急かつ積極的な対策を行うことを表明するもので、具体的には、脱炭素社会の実現を掲げることが多くなっています。本市では、令和3年8月に「ゼロカーボンシティちた宣言」を表明し、この中に気候変動に対する内容が含まれていることから、改めて気候非常事態宣言は行わない考えです。</p>
12	—	雑感	<p>① 休耕地の活用促進：太陽光発電や苗木養育などに</p> <p>② 除草物の堆肥化：生ごみ(焼却)に出すのではなく、別回収はできないか</p> <p>③ 「あいあいバス」の増便：最低1時間に1便。マイカーでの外出抑制になる</p>	<p>① 市内では、農地に支柱を立て、営農を継続しながら上部空間に太陽光発電設備を設置する営農型発電が進んでいます。</p> <p>② 除草物は、有効利用を図ることのできる資源と捉えておりますので、いただいたご意見は、今後の施策検討の参考にさせていただきます。</p> <p>③ 公共交通の利用促進は、マイカー利用の抑制、環境負荷の低減など波及的効果も期待されますので、いただいたご意見は、今後の施策検討の参考にさせていただきます。</p>
13	—	感想	<p>タイトルが「環境基本計画の一部改訂」となっているが、改訂内容は「地球温暖化対策」の一部が改訂されたもの。後者のみの方が分かり易い。</p>	<p>本市の地球温暖化対策計画は、環境基本計画の一部として含まれています。独立した計画となっておりますので、改訂する際は、今回のような表現となります。</p>
14	—	感想	<p>専門用語が随所に出てくる。前後の文章から推測しているが、内容が解からない。</p> <p>例) 「電力排出係数」の将来低下による…(P33の最下部など)部分。</p>	<p>詳細な説明が必要と思われる項目は、コラムなどで説明を記載していますが、網羅できない部分については本文中に補足する説明を追記するよう修正します。</p>
15	—	感想	<p>目標が高く無理だ、と感じる表現は如何なものか。</p> <p>例) 最上部(1)2050年までの目標の最後…実質ゼロにすることに挑戦します</p>	<p>国の掲げる目標と整合を図り、目指すべき方向を明確にすることを目的としています。高過ぎると感じる目標であっても、達成に向けた具体的な方策の検討を行うことが今後の課題と考えています。</p>